

報告

第20回北東3地域本部技術士交流研修会 「北東アジア地域を中心とした地域間技術交流」

長井智典

1. はじめに

第20回北東3地域本部技術士交流研修会が、去る9月26日(火)新潟市内のホテル日航新潟で開催されました。この交流研修会は、地域の自然、文化、産業構造が類似する北東地域に在住する技術士が、地縁技術の掘り起しとそれらの情報交換を行い、北東地域の発展に寄与することを目的として、平成10年度から北陸本部、東北本部、北海道本部の3地域本部が持ち回りで毎年開催しています。

今回は北陸本部が主催となり、北東アジア地域との技術交流について、新潟県の実績及び東北、北海道の取り組みを学び、北東アジア地域と3地域本部の技術士との交流が促進されることを目的に開催されました。研修会には、北海道本部から森本部長ほか6名が参加し、全体で70名の参加となりました。



写真-1 研修会場の様子

以下に、その内容をプログラム順に報告します。

表-1 研修会プログラム

- | |
|---|
| <p>●研修会
 テーマ「北東アジア地域を中心とした地域間技術交流」
 ・地域本部長挨拶
 ・来賓祝辞
 ・地域本部報告
 ・基調講演
 ・講演
 ・取組発表(北海道本部2編、東北本部2編、北陸本部5編)
 ・閉会挨拶</p> |
| <p>●交流会</p> |

2. 研修会(13:00～18:25)

(1) 地域本部長挨拶

まず、主催者を代表し大谷北陸本部長が挨拶されました。開催地新潟県・新潟市の紹介に加え、領事館が5つ(中国、韓国、モンゴル、ロシア、フランス)あり、北東アジアとの日本海側の交流拠点となっていることや、北陸支部時代に関連する別組織として「NPO 法人新潟県対外科学技術交流協会」を設立し様々な交流実績があることについてお話され、北陸本部としてNPO法人や北海道、東北の事例を学び、日本海沿岸諸国との交流が進むことに期待したいと述べられました。

次に吉川東北本部長より来年の全国大会(福島)の紹介があり、続いて森北海道本部長より北海道本部における国際交流の実情を踏まえ、北陸本部、東北本部に学びたいとお話されました。

(2) 来賓祝辞

日本技術士会を代表し高木会長から挨拶がありました。会長からは、本研修会の継続に敬意を表するとともに、中島みゆきの「糸」の歌詞を例に、部会と地域本部がおりあってこそ技術士会活動が成り立つとお話されました。また、研修会のテーマを踏まえ、技術士は一企業・一国のためだけではなく、人類の持続可能な発展に資することが責務と結ばれました。

(3) 地域本部報告

各地域本部の事務局から組織や活動の紹介があり、北海道本部からは羽二生事務局長が報告しました。



ちなみに報告された各地

写真-2 羽二生事務局長

域本部の正会員数は次のとおりです。北海道本部：965人、東北本部：1,093人、北陸本部：680人。

(4) 基調講演

「北東アジア交流の現状と展望」

(公財) 環日本海経済研究所

調査研究部長・主任研究員 新井 洋史 氏

先ず、新井部長より標記タイトルの講演がありました。ご所属の(公財)環日本海経済研究所は、北東アジア地域の経済に関する情報の収集及び提供、調査及び研究等を行うことにより、日本と同地域との経済交流を促進し、北東アジア経済圏の形成と発展に寄与するとともに国際社会に貢献することを目的に設立された法人です。講演では、北東アジア地域は、概ね環日本海地域と重なり、地理的条件、制度、文化が異なり、社会・経済指標では二桁以上の違いがある(日本、中国、ロシア、モンゴル、韓国、北朝鮮)ことや、国ごとに優先課題が異なっており、相互補完で協力を行う一方、世界レベルの大国が複数存在し牽制しあい、相互信頼が醸成されているとは言い難い状況であることを述べられ、お互いの国益ではなく、「地方」対「地方」の関係を築き北東アジア地域交流の弾みにできないかと提言されました。

(5) 講演

「地域間技術交流の40年」

日本技術士会参与・北陸本部名誉本部長

新潟県国際交流協会理事 中山 輝也 氏

中山氏が海外に関わるきっかけとなったのは、技術士となり中国へ第一次訪中団として参加(1979年1月)したのが始まりとのことでした。氏はその後、40年に亘り、中国、ロシア極東地域、韓国、モンゴル、東南アジア諸国との技術交流に関わっておられ、各国との交流から得た知見やエピソード等お話をいただきました。北東アジア情勢もこの20年の間に激しく変わり極めて難しい局面に立たされている。この様な状況の中で、日本としては、政治と経済は分離して考え、先ず日本を知ってもらうことから始め、問題に対し反論すべきは反論し、真実を国際社会に向け熱心にPRする必要性を述べられました。結びに、国家レベルの交流には大きな隙間がで

き、その空隙を補充するのが地域間、自治体、民間の交流であり、地域間交流には、①そこに生きる人達のアイデンティティ確立、②内なる国際化(異文化理解)、③視野を広く世界に向ける、といった理念の確立が必要と提言されました。

(6) 地域本部の取組発表

東北本部から2編、北海道本部から2編、北陸本部から5編、合計9編の研修発表がありました。

例年、各本部からの発表は2編程度ですが、北陸本部は支部関連組織として1989年に「新潟県対外科学技術交流協会」を設立し、以降積極的に北東アジアとの技術交流を行っていることから、今回は5編の発表となりました。発表概要を以下に示します。

①「国際交流におけるコミュニケーション」

株式会社小野組

今西 肇(東北本部/建設部門)

今西氏は大韓民国三星物産(株)の技術顧問として滞在していた経験を踏まえ、国際交流の意図、文化の違う者同士がどの様にコミュニケーションをとれば良いか、技術士ならではの深い付き合いをするために何が必要か、ダイバーシティ下のコミュニケーションの取り方について発表されました。

②「今年度、東北本部に発足した「ふくしま未来委員会」について」

福島大学共生システム理工学類

赤井 仁志(東北本部/総監・衛生工学部門)

今年度東北本部に発足した「ふくしま未来委員会」の活動内容と、福島県が目指す「再生可能エネルギー先駆けの地」について発表されました。「ふくしま未来委員会」は、ふくしまの現状と未来について情報収集・討議、各種行事企画・運営を行うとともに、ふくしま復興に関する国、県等の施策の調査・報告及び技術支援、協力を行うとのことでした。

③「北極海航路、新たなフロンティアの持続的利用への取り組み」

北海道大学北極域研究センター

大塚 夏彦(北海道本部/総監・建設部門)

北海道本部からは、前北方海域技術研究委員会代表の大塚氏が発表されました。地球温暖化により北極の利用に関心が集まり、北極海航路も注目されて

いる。北極海航路の輸送現況を交え、多様な技術分野、多様なアクターの協働の重要性を述べられ、世界を展望する際に、他分野にわたる技術士は多くの貢献が可能と発表されました。

④「日中冬期道路交通ワークショップについて」

株式会社構研エンジニアリング

池田 憲二(北海道本部/建設部門)

続いて、池田副本部長が前職の時に関わってこられた日中冬期道路交通ワークショップについて発表されました。ワークショップは、第1回が2002年に札幌で開催されてから毎年日中交互に開催されています。発表では新疆ウイグル自治区や内モンゴル自治区で開催された時の、交流会や街の様子なども交えてお話しされ、北海道で開発された吹雪や雪崩、凍結路面对策など多くの技術が中国に移転されたと発表されました。

⑤「中国黒竜江省との建設技術交流」

山岸技術士事務所

山岸 俊男(北陸本部/総監・建設部門)

新潟県は、1983年の中国黒竜江省との友好協定締結を機に相互交流が開始され、1997年に官民合同の道路建設技術交流団が生まれ訪中することとなった。山岸氏は、その際団長として訪中し、以降JICA草の根技術協力事業として「寒冷地道路舗装技術協力事業」(2002～2004年)、「県郷道路建設計画技術協力事業」(2005～2007年)、「橋梁維持管理計画技術協力事業」(2008～2010年)に関わり、若い技術者は積極的に海外の技術者と交流を図り、異文化に触れながら技術の研鑽に励んで欲しいと発表されました。

⑥「サインシャンド工業団地緑化と自生種の苗木生産による地域振興協力事業」

エヌシーイー株式会社

目黒 修治(北陸本部/総監・建設・森林部門)

2009年春、モンゴル国ドルノゴビ県知事から新潟県対外科学技術交流協会に「緑化技術協力」の要請があり、現地FS調査を実施。2010年から(財)自治体国際化協会、新潟県国際交流協会、JICAの助成を受け、モンゴル国サインシャンド及び周辺地域における緑化技術協力事業が行われた。発表では、

現地の状況をスライドで説明され、パフォーマンス的緑化ではなく、次に繋がる実のある緑化にしたいと述べられました。

⑦「モンゴル国中小企業技術支援事業」

長谷川経営コンサル

長谷川 信(北陸本部/機械部門)

2010年に泉田前新潟県知事がモンゴル国を訪問した際、モンゴル国の民間事業団体から中小企業支援要請を受け、2011年よりモンゴル農業大学との技術交流や民間中小企業の技術支援活動が行われている。LPGガス供給企業やコットン製品製造販売企業を例に、モンゴル中小企業の共通課題として、設備稼働率が低い、最新技術の入手情報が少ない、品質管理・品質保証が重要視されていない、需要の見通しが甘い中での過大な投資が心配と発表されました。

⑧「モンゴル国ウランバートル市地区排水技術協力事業」

株式会社新研基礎コンサルタント

伊藤 俊方(北陸本部/応用理学部門)

2007年に「新潟県モンゴル訪問団」がウランバートル市長との会談で、道路排水分野での技術協力を進めることに合意したことがきっかけで事業がスタートした。技術協力を進める中で、2010～2012年度、2014～2016年度の2回にわたりJICA草の根技術協力事業に採択され、第一段階ではプレキャストU字側溝による道路排水の設計・施工指導、第二段階では雨水調整池の計画と設計に関する技術指導を行ったと発表されました。

⑨「北東アジアとの技術交流拡大に向けた新たな展開」

株式会社サンワコン

辻 隆治(北陸本部/総監・建設部門)

新潟県で行っている北東アジア地域との技術交流を北陸四県の活動へと展開することを、北陸本部の新たな取組テーマとした。取組開始に当たり実施した会員アンケート及び意見交換会の結果について報告されました。アンケートの結果、北東アジアとの交流活動に興味がある方は約64%にのぼるが、自由意見から、活動に対する認識は新潟県と他の三県とで温度差があるとのことでした。今後は、「北東アジア交流勉強会」を発足し、その後「北東アジア交流委員会」に移行予定とのことでした。

(7)閉会挨拶

北陸本部の小林副本部長より、本研修会参加への謝辞及び各地域での様々な交流について期待したいとの挨拶を頂き研修会が終了しました。

3. 交流会(18:40～20:00)

研修会終了後、会場を30階鳳凰の間に移し交流会開始となりました。最初に北陸本部の中山名誉本部長から挨拶を頂き、高木会長の乾杯により会がスタートしました。

途中、次回の全国大会開催地である福島県の畠福島県支部長、長尾前福島県支部長、吉川東北本部長より全国大会の予定紹介がありました。交流会は、あっという間に閉会となり、屋敷北陸副本部長の締めにより閉会しました。

その後も3階のレストランへ場を移し、技術士や技術士制度等、熱心な意見交換が行われました。



写真-3 中山北陸名誉本部長



写真-4 高木会長



写真-5 交流会会場



写真-6 次回全国大会の紹介
(左から長尾前福島県支部長、畠福島県支部長、吉川東北本部長)



写真-7 北海道本部の発表者お二人と
中山北陸名誉本部長

写真-8 屋敷北陸副本部長による締め



写真-9 二次会の様子

4. おわりに

今回の研修会テーマは北東アジアとの技術交流であり、発表された北陸本部(新潟県)の積極的な活動に感心しました。産業のグローバル化が進む中、個人的には視野を広く世界に向けなければと、改めて考えさせられました。さて、次回の開催は当本部(北海道)がホストとなりますので、皆様是非、ご参加頂きますようお願いいたします。

最後に、主催者である北陸本部の皆様、発表者及び御協力いただいた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

長 井 智 典 (ながい とものり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

